

## 成果報告書 実践②

報告者氏名： 達直美

所属：三重大学教育学部附属特別支援学校

記録日：2014年2月14日

### 【対象生徒の情報】

- ・ 学年 中学部3年生
- ・ 障害名 自閉症・療育手帳A1を所持
- ・ 障害と困難の内容
  - ・ 表出言語が少なく、欲求や要求を伝えることが上手くできない。
  - ・ 言葉が不十分なため、支援者がアンテナを貼っていないと気持ちを掴めないところがあり、支援者が〇〇？と疑問符を使うと何でも頷いてしまう。
  - ・ 本人は気持ちや要求が理解してもらえず ストレスがたまりパニックになってしまう。



### 1 ねらい

本人は、言葉は増えてきたものの言葉の意味を理解して文字に表すのはまだ難しい。しかし、イラスト＋文字・写真＋文字などで視覚支援をすると理解を促すことができる。今は、自分から思いを表出することはできないが、保護者の一番の願いは、自分の事を知ってほしい＝つたえたいというものである。卒業後の生活を視野にいれながら学校や家庭生活の中で以下の3つのねらい取り組むことにした。

- ① 欲求や要求や自分の思いを人に伝えることができる。
- ② 活動の見通しを持つことができる。
- ③ 友だちとのやりとりができ、活動の中で役割を自分で担うことができる。
- ④ 家での役割を自分で担い生活をより豊かにする。

### 2 実施期間

中学部3年生 2013年度5月～3月末まで

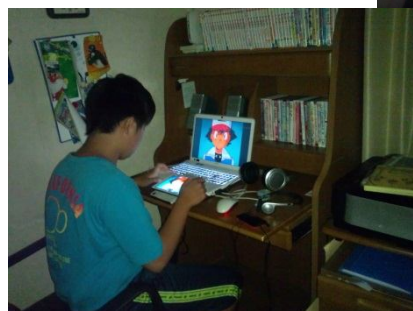
### 3 実施者

達直美(保護者との計画立案及び連携)

中学部クラス担任(西山・北林)

### 4 実施者との関係

プロジェクト代表者・クラス担任



## 【活動内容と生徒の変化】

### 1 対象生徒の事前の状況

iPod やパソコンやデジカメなどの機器には関心が高く自分で写真を撮ったり好きな音楽を聴いたりしている。視覚支援は有効で、家庭では iPod などの支援機を使い見通しをもたせたり、気持ちを表す言葉を選択させたりする試みを行っていたがそれを学校で活用することはできなかった。

- ① 自分の要求などは目や指さしで訴え、理解してもらおうとする姿が多い。買い物や外出の際にカードなどを差し出すことはできるが自分で注文したりする経験は少ない。
- ② 長いスケジュールや初めての場所に出かけるときなどには見通しが持てず不安になったり、気になる部分にしか目に入らなかつたりする。家庭では支援機を使い見通しをもたせていたが、中学部ではカードで支援しており、支援機を活用することはできなかった。
- ③ クラスの生徒は本人を含め3人。2名は、当校の中学部に地域の小学校より進学してきた生徒で、コミュニケーションもできる。その中で、本人は、クラスの仲間と一緒に関わりあいたいという気持ちを持っている。
- ④ 自分の役割を意識して何かをすることはあまりなく、家庭ではお手伝いなどもしていなかった。

### 2 活動の内容と生徒の変化

#### ① 「自分の気持ちを伝えたい！」コミュニケーション支援

日常生活の中で自分の欲求や要求や自分の気持ちを伝えるために iPad を活用する。給食時や買い物・外食で活用する。

【目的】卒業後の生活を視野に入れ、自分の気持ちが伝わる体験を積み重ねる。外出先での買い物や外食で人と関わりながら、自分で欲しいものが頼めるという体験を通し、自分でもできるという自己効力感から自信をもつことができる姿を目指したい。

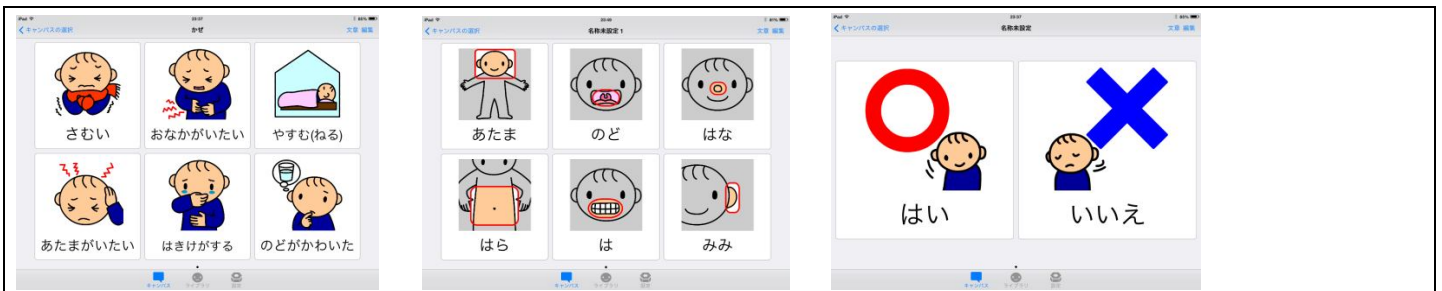
【iPad の具体的活用】「ドロップトーク」「絵カードコミュニケーション」「カメラ」

ア：食事の挨拶は自分で！

給食や食事の場で「おかわりがほしい」とか「もういりません」を伝えたり、朝ご飯を「パン」「ご飯」にするというところを伝えたりするところから始めている。目で訴えたり、クレーン行動で意思を表したりするのではなく、自分で選択することを理解しながら体験を積み重ねている。



食事中に立ち歩くことがあったが、「いただきます」を表示しておくとふらっと立ち歩くことがなくなり、保護者が他の用事をしているでも「ごちそうさま」をタップしてしらせるようになった。



体調が悪いときに訴えることができないことが課題の一つである。ドロップロックで必要なカードを選びそれを見せることで今どのようなところが痛いのかはい・いいえで答えられるように取り組んでいる。

イ：目指すは、一人で買い物！



外出する楽しみが増えた。自分で好きなお店を選んで、大好きなソフトクリームを買う。自分でボタンを押して！「ソフトクリームください」と伝えている。大好きなスーパー銭湯にヘルパーさんと行ったときにもお風呂上がりのソフトクリームの注文をすることができた。自分の好きなものから始めることで迷うことなく選択でき、タップする回数も最小限

に使えるところがよかった。コンビニも挑戦しながら、外食での経験を積んでいきたいと思う。ハードルを上げすぎずにすすめたい。買い物に関連して数の学習アプリ・色の見分け方・数・比較の学習をすすめている。



出かけるお店によって選べる物がちがうのでお店ごとのシートをつくってどこにいても、自分で選べるようにしておく

アプリの活用から…絵カードコミュニケーション…いろいろなものが入れられ音声が出る場所がいい。

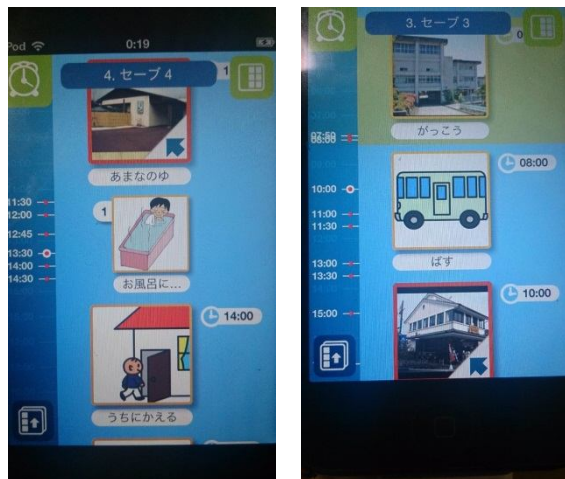
② 「スケジュールを自分で確認する！」見通しをもつ

その日のスケジュールや予定の活動やその活動の順番を確認する。朝の会の役割に活用する。学校生活や余暇活動や移動支援のときに活用する。

**【目的】**卒業後の生活を視野に入れ、自分のスケジュールを自分で確認して行動することができる姿を目指したい。

**【iPadの具体的活用】「タスクスケジュール」「ドロップトーク」**

朝、家を出るときや学校の朝の会で、タスクスケジュールや絵カードコミュニケーションを活用して予定や活動の順番を確認させたり、校外活動や行事やヘルパーさんのお出かけで何をするのかなどの見通しを持って活動に参加できるようにしている。また朝の会ではドロップトークで司会をしたり、時間割係が支援を受けてだけでなく、自分で支援機を操作しています。自分でも参画しているという意識が持てるようになり、その姿を見る仲間も「すごいなあ」と本人をより理解してくれるようになった。今後は、作業の学習での手順表や課題学習でも使っていくことで自分で活かすことで自分で活用できる体験を増やしていきたい。現在自分でもできるという実感を促すために総門から自分で歩いて登校するという取り組みを始め一人で学校に登校できるようになった。



校外学習やヘルパーさんのお出かけで活動の見通しや持ち物の確認をするため活用したときのスケジュール！行事のときの見通しもこれでバッチリ！



朝の会も役割も自信を持ってできたよ！



**アプリの活用から** タスクスケジュール…時系列に写真やシンボルを取り込めやすく、音声が出るころがいい！選択肢をしばることができる。

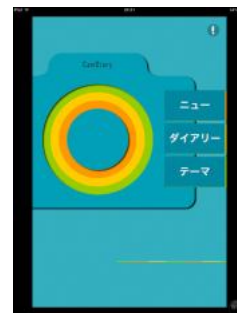
### ③ 「自分のことをもっと知って欲しい！」クラスの仲間や友だちとの関わりを増やす。

【目的】卒業後の生活を視野に入れ、友だちとの交流を深め相互にやりとりできる姿を目指す。

【iPad の具体的活用】「写真日記 Cam Diary」「メール」「ドロップトーク」「ゲームアプリ」

#### ア 写真日記をつける

友だちとのやりとりがなかなかできなかったが、写真日記 Cam Diary に挑戦して、休みの日の出来事を朝の会で友だちに紹介することにした。2 語文くらいを目標に文章を保護者と一緒につけている。本人は絵文字やイラストにも関心を示す。写真を自分で撮ったりその様子を保護者が撮ったりしている。その日の出来事を振り返ることができるのも利点の一つである。家庭でお母さんのお手伝いの様子を褒めるととってもうれしそうな顔になる。何よりも友だちが休日の様子を報告している本人の姿をみて言葉をたくさんかけてくれるようになり、関わり合いができる姿がみられるようになった。転校した友だちともメールのやりとりをしている。



アプリの活用から…カムダイアリー…シンプルである。メモがかける。カレンダー形式でないのに日記をつけていない日の空きを気にすることなく取り組める

#### イ 転校した友だちとメールをする

友だちと自分の楽しかったことを共有できたらいいなあという思いで始めた。写真の添付もあるので本人も興味津々である。学校の iPad に家庭からメールすることで送ったものが届くという理解も促せた。現在は 50 音のキーボードを使って保護者と一緒にメールを作成している。文章作成まだ難しいが送ったメールに返事が届くというやりとりを理解し、興味をもって取り組んでいる。返事が来るとうれしそうで、文字習得への学習意欲にもつながっている。転校した友だちともメールのやりとりを継続している。遠くに暮らすお祖父さんとのやりとりなど、少しずつやりとりできる送り先を増やしたい。



そうめん食べ  
ました。おいし  
かったです。  
梅雨が明けま  
した。あついで  
す。



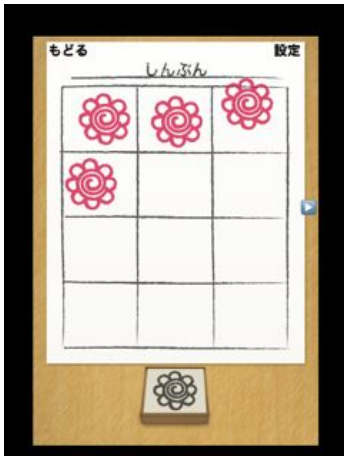
ぎょうざつくり  
ました。おいし  
かった。にちよう  
びおしろこうえん  
のおまつりにい  
きました

④ 「お手伝いができる」家での自分の役割を担うことができる。

【目的】卒業後の生活を視野に入れ、友だちとの交流を深め相互にやりとりできる姿を目指す。

【iPadの具体的活用】「花丸」

朝、新聞を取りにいくお手伝いをして、やり終えた後に自分で「花丸」を押す。自ら進んで新聞を取りに行くようになってきた。家庭での自分の役割があるということ意識して取り組むようになった。その達成感を通して自己効力感が育まれつつある



【報告者の気づきとエビデンス】

対象生徒について…保育園よりPCに関心が高く、登校の小学部に入りデジカメ撮影に目覚めた姿を通して、情報端末機は活用できないだろうかと保護者が考えられiPadとiPod touchに親子で取り組むようになってきた。一番の理由は、見通しが持てないことや不安な時にパニックになり集団の中に入りにくい状況であったからである。最初は、家庭で、色々なアプリを購入し、楽しく取り組み情緒の安定を計る試みをし

ていたって。その中で、さらに、生活の中で支援機として活用できないかと保護者が考えられた。対象生徒自身が機器への関心が高かったため、自然に保護者も支援機の活用に前向きになられたのだと考える。学校においては、全体に情報端末機の活用だけでなく PC の活用など ICT を教育活動に活用している状況に  
なく、生徒に対しては、カードや言葉がけで対応していた状況で、イレギュラーな活動ではパニックも見られた。今回、学校と家庭で iPad を活用し、本人の見通しを持てるような支援が繋がったことでパニックがなくなり、落ち着いて活動に参加できる姿に繋がった成果は大きい。活用を通して、単にコミュニケーションの支援として活用するのではなく、将来の生活を視野に入れて、人とのやりとりを楽しいと感じてもらう経験を加味していこうと保護者と話し合った。ヘルパーさんとの外出や家族との外出時の買い物や外食の注文などや日記やメールでのやりとりを通して友だちとのやりとりができるということを実感し楽しさを感じはじめています。メールでのやりとりは本人だけでなくクラスの友達や保護者間の連携にも繋がっており、互いの違いを認め合うことができつつある状況である。

学校について…他の保護者からの要望が、高まってきている。これまで、情報機器活用の学習会を行ったり、学校内外での様々な活用により、対象生徒が日常生活を過ごしやすくなったことを目に見える形で示してきたりしたことで、校内でも理解が広がってきつつあり、ワーキング委員会も発足した。中学部でも1年間試行期間として取り組みを認めてもらい実践し、生徒が高等部に進学するのでその後、取り組みがスムーズに移行できるように考えているところである。

今後も家庭・学校の活用を充実させ、職員の理解を促しながら 学校内外での般化を目指していきたい。

- ・校外学習や行事などでのスケジュールや活動の流れの見通しを持てるように積極的活用をする。
- ・買い物・外食での注文ができるようになる。
- ・意思の選択を食事の場だけでなく自分の気持ちを伝える場など様々な表出の場に広げていく。
- ・仲間との関わり合いをさらに広げていく。

### 【気づきに関するエビデンス】

今まで自ら言葉を発することは少なかった A さんが「おいしいです」とはっきり気持ちを表現する場が見られた。また、学校でのパニックも見られなくなった。色々な場面で自分の役割を担うことができ、自分でもできるという自己効力感から自信がもて、学習に積極的に取り組む姿が見られるようになってきた。

#### ★Cam Diary

月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	
回数	11	27	7	2	1	4	3	11	

長期休業中に取り組む時間や出来事も多い。学校のある日よりも長期休業中に楽しめることのひとつとなっていることも将来の生活を視野に入れ、人と繋がるツール担っていくのではないかと考える。

#### ★メール交換

月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月
回数	2	7	2	5	7	4	3	4	2

おもに転校した友だちとのやりとりを母親と一緒にしている。言葉でのやりとりは難しいが、写真と文字で互いに相手の様子がよくわかる。定期的にメールをすることで仲の良かった友だちとの交流が続くことを

継続していきたい。

★**絵カードコミュニケーション**→ヘルパーさんとの外出で 13 回活用(9 回自分で買うものが決まっている場合で活用。3 回コンビニのレジで活用)。

★**花丸** 2 月現在 29 個のスタンプ貯まった。12 個貯まるとご褒美が家からもらえることを励みにしている。

★【保護者からのアンケートより】 \* iPad 活用の勉強会の保護者 4 名

- 1 iPad でどんな取り組みを家庭でしてきたか。  
写真・アプリの活用・Youtube・メール・ナビ機能
- 2 iPad 活用の可能性について  
可能性がある
- 3 学校や家庭で iPad を活用するために何を充実すればいいのか  
ICT 活用のための環境整備・教員や保護者の指導力  
iPad 活用の授業の確保・子どもたちの興味関心からの活用  
ICT 教育研修の充実・障害特性への理解  
学校と保護者との協力
- 4 iPad 活用において期待できる要素  
今後の子どもの将来にとって必要なもの  
コミュニケーションの支援機器となる  
自主的な学習のサポート  
余暇活動への活用
- 5 本校において期待できる授業について  
日常生活・課題学習・社会生活・作業学習・掃除・調理実習・校外学習・運動会・学校祭  
\* 学校では遊びの時間に使わない方がいい
- 6 家庭において期待できる活用  
生活支援・コミュニケーション支援・学習支援・外出支援  
\* 車椅子やメガネのように普通に使える支援機器になってほしい
- 7 子どもの変容について  
言葉が増えた・興味関心が増えた・読み書きの力が増した  
タイマーがつかえた・iPad の扱いが丁寧になった・絵カードが自分で作れるようになった  
検索ができるようになった・病院やフードコートなど家以外の場所で遊びではなく支援として使えるようになった。

上記のように本人や保護者のニーズは高い。家庭での実践において成果がでていることを伝えながら、ICT 教育を推進するために発足したワーキンググループの体制を整え、学校全体で実践できるようにしていきたいと思う。